

四年後に向けて

群馬県渋川市立渋川北中学校 二年

飯野 歩乃

皆さんは、「大人」というとどのような人たちをイメージしますか。親や先生たち、世の中で働いている人たちを想像する人が多いと思います。しかし、今年二〇二二年四月。約百四十年ぶりに民法が改正され、成人年齢が二十歳から十八歳に引き下げられたことを皆さんは知っていますか。十八歳と言えば私たち中学生にとって、ほんの数年後です。私たちは「大人」になることが、もうすぐそこまで迫ってきているのです。

まず、二十歳と十八歳では何が違うのでしょうか。義務教育は終了しているので、社会人もいれば、学生もいるでしょう。しかし、両者には社会経験、精神年齢、金銭感覚等で大きな違いがあるのではないかと思います。私が想像する二十歳は、高校を卒業して社会に出ている人もいれば、大学に進学している人もいる年齢かと思えます。そしてその大学生はすべてではないかもしれませんが、親元を離れアルバイトや仕送りによって自立した生活をしているイメージがあります。しかし十八歳はというと、多くの人が高校生であり、親元で暮らし、親の監視の下、少ないお小遣いで生活しているイメージがあります。十八歳はまだまだ親に養ってもらっているという印象です。私の想像の中でもこれほどイメージが違う二十歳と十八歳ですが、この二歳を今回法律上の成人年齢として引き下げてしまつて本当によいのだろうかと疑問に思いました。それは、今年十四歳となる私が十八歳となる四年後に、様々な「大人」としての判断を下すことに不安を感じるからです。

今回の民法改正で、十八歳で物を買う時のローンを組むこと、クレジットカード、携帯電話の契約、部屋を借りる際の契約など様々なことが親の同意を得ずに自分の意志でできるようになります。また、国家資格に基づく職業に就くこと、有効期間が十年のパスポートを取得することなど、今まで十八歳ではできなかった様々なことができるようになります。選択肢が大きく広がり、自分の意志と頑張り次第で、様々なことが実現可能になるのだなと思いました。しかし、同時に不安も覚えました。それは、身近に相談できる人、信頼できる人がいる場合には良いのですが、そうでない場合、うまい話にだまされてしまつたり、トラブルに巻き込まれてしまつたりする可能性がないとは限らないからです。また、そのような間違いを犯してしまった時の責任も当然自分で取るようになります。「大人」になるということは、「自由」が増える代わりに「責任」も増えるということなのだと思いました。

では、私たち中学生は、十八歳成人に向け、今何を考え、どのような準備をすべきでしょうか。それはまず、私たち一人一人が自分自身で知識を得、学ぶ努力をすることだと思います。様々なことに興味を持ち、自分自身でそれらについて調べ、自ら学ぶ姿勢を持つことが何よりも大切です。私自身、今回民法改正に興味を持ち、調べようと思つたきっかけは、テレビのニュースや新聞で見聞きし、自分に関係することだと感じたからです。そして調べていく中で、様々なことを考え、様々な気づきがありました。このように、まず私たち一人一人がアンテナを広げ、世の中の様々なことに興味を持ち、受け身ではなく主体的に行動していくことが一番重要だと思えます。また、情報を集めるだけではなく、中学生としての生活の中で、失敗も成功も含め様々な経験を積み、正しい判断力を身につけていくことも必要になってくると思います。

社会に出て保護がなくなつたばかりの成年を狙う悪質な業者もあると聞きます。そのような相手から被害を受けないためにも、自分自身できちんと調べ、正しい判断をし、責任をもつて行動することができる大人になりたいと思えます。十八歳成人はもうすぐそこです。この先続く自分の未来のためにも、中学生である今を大切に過ごし、「大人」になる準備をしていきたいと思えます。